

熱田神宮 宝物館だより

熱田神宮宝物館

編集 内田 雅之

〒456-8585

名古屋市熱田区神宮一丁目 1 番 1 号

TEL (052)671-0852 FAX (052)671-1202

(年 6 回発行)

秋季企画展 「熱田神宮の特殊神事 ～連綿と伝わる宮廷儀式～」 より



あつたさいてんねんちゅうぎょうじずえ
熱田祭奠年中行事図会 卷三 紙本著色 1冊 縦27.0cm 横19.3cm 江戸時代 名古屋市蓬左文庫蔵

『熱田祭奠年中行事図会』は10冊からなり、当神宮の1年間の祭典神事を紹介したもので、神事の解説に続き、精巧な挿図が多数盛り込まれ、読む者を魅了させる内容である。

これは1月15日の^{ほししんじ}歩射神事の様子を描いたもので、最後の矢を射終わったのを合図に、^{はしよ}裾を端折った見物人が一斉に^{やらい}矢来を飛び越えて的を激しく奪い合う光景が、生き生きと描かれている。群衆が頭に締めた鉢巻きに、その気合いの程が窺える。そして、その光景を矢来外で笑いながら見る者も描き添えている。

添えられた説明は、的を奪い合う喧騒さが紹介され、得た破片を門戸に差せば火災除けとなり、田畑に差せば虫がつかないことを記している。

9月平常展 — 熱田神宮宝物展 —

9月1日(金)～9月26日(火)
(期間中無休)

※展示品は毎月入替いたします

— 展示品より —



きくまき え こうごう
菊蒔絵香合 木製漆塗 1合 室町時代
高 4.4cm 径 6.7cm

すず おさくち あいくらづくり きんなし
錫の置口をつけた合口造の香合で、全体を金梨子
地とし、蓋表裏に八重の枝菊を、胴周りに竹を高蒔絵
で配する美しい意匠の作品で、当神宮所蔵の「菊蒔
絵手箱」(室町時代 重要文化財)より技巧的に精
緻な作風である。

『張州雑志』の宝物の中に香合の記載はあるが、
「蒔絵香合」とあるのみで、詳細は明らかでない。

なお、本来は手箱内容品の内の薫物箱などに使用
されたものと推定される。



まがきにきくそうかくきょう
籬菊双鶴鏡 白銅鑄製 1面 室町時代
面径 11.3cm

きょうはい きつこうもんらこう
鏡背中央に亀甲文鈕を据えた小型円鏡である。鶴
亀の配置は蓬萊鏡と同様だが、松が配される場所に
咲き誇る菊が、また菊の奥には籬(垣)が設けられて
いる。

籬、また本鏡にみられる籬に菊文様は、平安時代
後期から鎌倉時代に制作された鏡鑑にも見受けられ
る。これは平安時代に籬に結いつけて栽培した中国
での菊の栽培法が知識人に広まったことから、貴族
や武将の間で流行する文様となった。

その他の主な展示品

◎重文 ○県文

《書 跡》 ◎日本書紀(巻第七) 延享三年中秋十五夜宝前詠十五首和歌 徳川秀忠知行朱印状

《絵 画》 旭日稲穂図-福永清帆筆- 秋景山水図-村瀬環山筆- 秋山曳杖図-笠谷生筆- 秋山図 他

《工 芸》 ◎菊蒔絵手箱 ○明治天皇御奉幣大判 菊唐草双鳥鏡 蓬萊鏡 菊紋手筥

《刀 剣》 ◎太刀 銘 元弘三年六月一日実阿作 ○太刀 銘 豊後国行平作 太刀 銘 友行 短刀 銘 吉光 他

《コーナー展示～館蔵近・現代作家の名品～》 旭日桜花図-横山大観筆- 紅白梅-前田青邨筆- 神鷄-川合玉堂筆-

西山道遥-平柳田中作- 蒔絵色紙箱-室瀬和美作- 曲輪造朱彩菓子器-小森邦衛作- 角花生-伊勢崎淳作- 他

秋季企画展 「熱田神宮の特殊神事 ～連綿と伝わる宮廷儀式～」

熱田神宮では、皇統の繁栄、五穀豊穡や国民の弥栄を祈念する祭典・神事、更に毎月朔日に執り行われる月次祭など、年間約60度に及ぶ恒例祭典が斎行されています。また、日々朝夕には御祭神に神饌をお供えする日供祭も行われるなど、境内では毎日祭典が行われているといっても過言ではありません。

なかでも、各々の神社にとって特別の由緒をもち、全国共通に行われる祭式規定、祭祀令に該当しない、神社固有の神事・祭祀を、現在では「特殊神事」と称しています。当神宮は草薙神剣を御神体として奉斎する由縁から、5月4日の酔笑人神事や翌5日の神輿渡御神事、同8日の豊年祭など、御神体・御祭神に因んだ神事や、1月11日の踏歌神事、5月1日に行われる舞楽神事など、宮中から伝播した神事も多く、現在でも約10度の特殊神事が斎行されています。

そこで本展では、当神宮の特殊神事を中心に、その神事をあらわした絵画や文献資料、また実際に神事の執物として使用された宝物も展示し、当神宮の特殊神事を紹介するとともに、太古より連綿と護り伝えられ、斎行されるこれら神事の重義を再認識頂く目的で開催いたします。

本展をとおり、特殊神事の意義と御祭神の御神徳、また日本の伝統文化・精神をご理解頂ければ幸いです。

■会 期 平成29年9月29日（金）～10月24日（火）
（会期中無休）

■時 間 午前9時～午後4時30分
（入館は午後4時10分まで）

■主 催 熱田神宮宝物館 中日新聞社
■後 援 愛知県神社庁 愛知県教育委員会
名古屋市教育委員会

■拝観料 大 人 500円（300円）
小中学生 200円（100円）
※（ ）は20名以上の団体料金



とこしなへ 江戸時代 西尾市岩瀬文庫蔵



重文 木造舞楽面 抜頭
平安時代 熱田神宮蔵



重文 金銅装唐鞍 室町時代
熱田神宮蔵



尾張名所図会前編 巻四
江戸時代 名古屋市博物館蔵

一企画展より一



ちやうしゅうざっし
張州雜志 卷第五十一 1冊 江戸時代
縦 28.8cm 横 18.8cm 名古屋市蓬左文庫蔵

『張州雜志』は、尾張藩士内藤正参が執筆した、全100冊からなる藩領の地誌である。

展示箇所は、2月初午の日に執り行われた御田神社祈年祭の鳥喰の行事をあらわしたものである。祭員が屋根に餅(糰)を投げ、鳥が飛来して糰を啄む様子が描かれている。「糰」とは、神前に供える餅のことをいい、米粉を清水でこねて丸形に形成したものである。

現在は糰を土用殿の屋根に投げるが、江戸時代は祭文殿前で鳥喰の行事を行っていた。



あつた おおやままつりず
熱田大山祭図 小寺稲泉筆 1幅 現代
縦 72.6cm 横 90.3cm 熱田神宮蔵

摂社南新宮社の例祭は、6月5日を祭日とし、俗に「大山祭」・「天王祭」・「祇園祭」と称された。その起源は寛弘七年と伝え、(1010)文明年間(1469~87)に熱田郷中の村長佐橋兵部が祭式を定めてから、この壮大な大山および車楽を曳いたとされる。

本画は田中村の大山を曳き回すさまを描いたもので、四段に組まれた檣に松樹が立てられ、からくり人形が置かれていた。胴懸に鯛の意匠が施されているが、これはかつて琵琶の名手であった藤原師長(よじわらのもろなが)が尾張国に配流された折、当神宮で秘曲を奏でた際に海中の魚が妙音に感じて踊躍したさまをあらわしたものである。

『熱田町旧記』によると、高さ12間(約22m)、鯛の太さ2尺(60cm)、長さ50尋(90m)であったとあり、民衆に於ける神賑わいの勇壮さが感じられる。この大山・車楽の巡行は、(1894)明治27年、道路や電線の普及により中止され、現在に至っている。



熱田神宮絵葉書 明治時代

熱田神宮蔵